

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



母と子

デッサン(紙に黒チョーク)

15.5×10.4cm

バルビゾン派七星・真の農民画家

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1856 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バルビゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

「母と子」右下にサイン

1858-1859年頃のみレーの妻 カトリーヌ・ルメールと

その子供 1857年6月誕生の次男シャルルと思われる。

この頃の作品に「歩き始め」の素描も油彩も描かれている。

このミレーの作品は非常にミケランジェロ似ている。ミレーは若い頃から素描の画才がある。

またこの頃からデッサン、色彩とも雄弁なバロックや古典派の重量級な絵画を好んだ傾向があり、トマ、アンリ美術館や23歳でパリに出た時にパンテオン広場の聖ジュヌヴィエーブ図書館やルーブル美術館に閉じこもりミケランジェロ研究をし始めている。

もちろん、この母と子の作品はバルビゾン村での作品である。

作品名 母と子

種類 デッサン(紙に黒チョーク)

サイズ 15.5×10.4cm

※ミレーの版画は、油彩やパステルに比較すると数が少ないです
20点のエッチング、6点のリトグラフ、2点のガラス版3点の木版画を制作
しているにすぎません